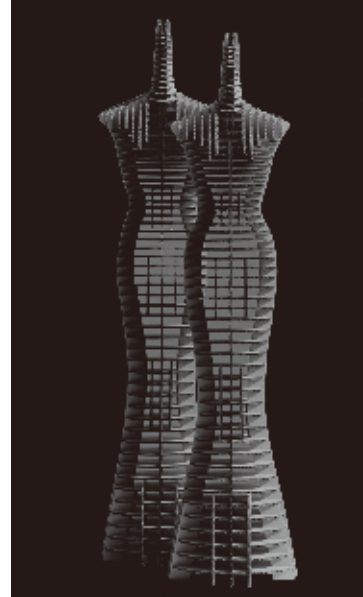




大分県議会議員候補

まつおか ゆうき

松岡 勇樹

立候補のご挨拶

私は18年前に故郷、国東半島に帰って来ました。以来ずっとモノづくりの仕事をする中でいろいろな人々と出会い、地域の問題を肌で感じて来ました。なかでも急速に進行する少子高齢化問題は私たちの世代で有効な策を講じなければ手遅れになる切迫した問題です。人口減少に歯止めをかけ、さらには国東半島文化・経済をプラスに転じるべく、具体的な提案を持って今回出馬いたします。

これまでの経験をとおして培ってきたアイデア・創造力を活かし、みなさんと一緒に豊かな地域社会を創造していきたいと考えています。

プロフィール

- 1962 大分県国東市安岐町生まれ
- 1990 武蔵野美術大学建築学科修士課程修了、構造設計事務所 T.I.S.&Partners 入社
- 1995 段ボール製 組立式マネキン d-torso 第1号試作
- 1998 アキ工作社 設立、代表取締役社長
- 2001 d-torso『EVE』にて2001-2002 グッドデザイン賞 受賞
- 2005 第二回大分県ビジネスプラングランプリ最優秀賞 受賞
- 2007 経済産業省「元気なモノづくり企業300社」認定
- 2009 廃校になった旧西武蔵小学校に本社を移転
- 2011 ニューヨーク ICFF 出展
- 2012 経済産業省「ものづくり日本大賞 優秀賞」受賞
- 2013 週休三日の「国東時間」スタート
- 2018 創業20周年。社名を国東時間株式会社、ブランド名を「FLATS(フラッツ)」に改称する



松岡勇樹

検索

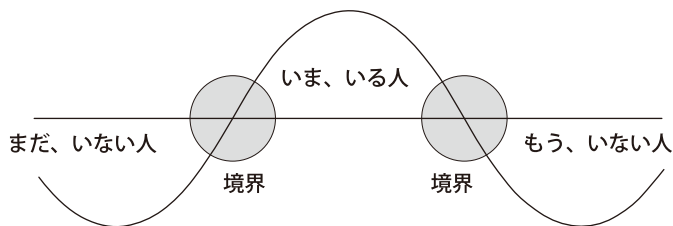
政策の詳細はこちらから
kunisakitime.com/matsuoka

政治理念 「国東時間」

『(時間の質は均一ではない。それぞれの地域にはその地域固有の) 国東には国東の固有の時間が流れているはずだ。その時間を積極的に身体に取り込みながら、国東半島の風土文化の最も古い地層に直接根をおろして、ふたたび豊かな地域社会を組み立てることができるはずだ。』

これが「国東時間」の考え方です。この場所に流れている「時間」は今生きている私たちだけのものではありません。すでに逝きこの地に眠る人、そしてこれからこの地に生まれ出でようとする人。つまり「今いる人、もういない人、まだいない人」にとって同時的に時は流れているのです。

もっとも重要なのは二つの境界部分、つまり「死」と「生」のポイントです。この二つの境界部分に私たちの持てるリソースを集中することで、今いる私たちの世界がとても豊かに結実していくのだと私は考えます。



わたしの政策 1

「時間の庭」プロジェクト

「時間の庭」プロジェクトは国東半島に国内最大規模の樹木葬による庭園型墓地を建築する計画です。そして世界で初めて「死」を中心に据えた都市計画をこの国東半島において構想するものです。

「時間の庭」の建設から始まるこのプロジェクトは死に至る時間を遡りながら機能と施設（終末医療施設、介護施設、老人村、看護ホテル等々）を拡大し、ひとつの都市計画となって進行します。「時間の庭」に眠るのは土地の人たちだけではなく。県内はもとよりこのプロジェクトに共感する人たちが全国から集まってきます。幸いなことに国東半島には空港が接続しています。お墓参りに訪れる遺族や友人たちによる交流人口も増えるでしょう。宿泊施設も必要です。これは世界で初めて取り組もうとしている「死をテーマにした都市計画」です。そしてこれは国東半島であるからこそ全国に先駆けて実施可能な計画なのです。



わたしの政策 2

選挙のあり方そのものを変えなければ

もうすぐ元号も変わろうとしているこの時期、国内の選挙はどれも相変わらず昭和の時代の選挙を続けています。選挙カーでウグイス嬢が候補者の名前を連呼し、寒い中候補者は辻立ちをして有権者の同情を集め、立会演説会ではハンドスピーカーが発するひび割れた音が静かな日常を侵食する。

こんな光景を見て育って自分も選挙に出ようと思う若者がいるでしょうか。優秀な人材はこうやって政治から離れ、投票所から離れ、地域から離れていく。政治家という職業が尊敬されなくなってずいぶん久しい。こういう選挙はもうやめなければ。政治は劣化し人口は減るばかりです。

地域には優秀な、そして志のある若者がまだまだ残っています。彼らが職業を持ちながら議会に参加して地域の問題を考える道を作らなければなりません。仕事が終わってから夜議会を開催してもいい、選挙期間は全員の候補者による公開討論も聞きたい。志のあるものが議会に出やすい環境を作るべきです。そして有権者は地縁・血縁・利害関係・同調圧力によらずに、一人ひとりが自分自身で考えて地域の将来を託せると思う人を選ばなければ。私たちの世代でそれをやらなければ、次の世代に先送りするわけにはいきません。

今回私は選挙カーも使いません。立ち合い演説もやりません。選挙期間中は私の選挙事務所である「お茶室」にこもって有権者の皆さんをお待ちします。「静かな選挙」「お茶室選挙」です。

皆さんぜひいらしてください。地域の未来のはなし、哲学を語り合しましょう。(tel: 090-6421-3712 安岐町下原 2406-1)

